

下関市立檜崎小学校の児童が丸太切りや丸太の黒板づくり等を体験！

令和5年1月24日（火）、下関市立檜崎小学校において、3・4年生18名を対象に、森林体験学習が実施されました。

これは、次世代を担う子供たちに、ふるさとの森林の大切さやそれを支える林業の役割について、興味、関心をもってもらうために、「菊川町林業研究会」（会長：松田弾六）が行ったものです。

当日は、林研会員から森林の役割等の説明後、3～4名の班に分かれ、班員が協力しあって、ノコギリによるヒノキの丸太切りに挑戦し、続いて丸太の黒板作り、木槌によるシイタケの種駒打ちを体験しました。

児童たちは、ほとんどが初体験で、初めて使う道具に戸惑いながらも熱心に作業をしていました。

最後に「ふりかえり」を行い、「丸太を切るのは大変だった。」、「シイタケの種駒を初めて見てびっくりした。」、などの声が聞かれ、森の恵みを通じて、森林・林業に興味を持ってくれたようでした。

菊川町林業研究会では、今後もこのような森林体験学習を継続し、子供たちの森林に対する意識を高めていくこととしています。



森林・林業の大切さを学ぶ



ヒノキの丸太切りに挑戦